

〈史料紹介〉

徳山藩絵図方史料「絵図方之事全録」

山田 稔

「絵図方之事全録」(徳山毛利家文庫・法制方二二)は、文化九年(一八一二)九月から弘化五年(一八四八)正月に至る間の、徳山藩絵図方関係文書を編年順に収録したものである。作成者は、同藩御用所御法制方で、原表紙に記された文化九(一八一四)分以外に、同十三年(一八一六)、文政元年(一八一八)と弘化五年分が追加されている。内容は、任免に関する沙汰が中心であるが、同絵図方の組織や役務を知る上で格好の史料である。

本文中に「大令」と記されるのは「大令録」、「重令」と記されるのは「重令録」(いずれも徳山毛利家文庫)からの抽出を示している。ただし、出典が上記であって

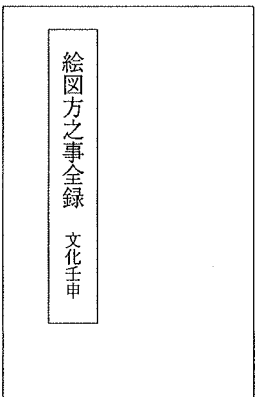
も注記を伴わない場合があり、逆に注記があっても「重令録」に該当がない場合もある。いずれにせよ、翻刻に際しては、原本対校を可能な限り行った。また、対校作業中に確認できた遺漏文書を稿末に掲げた。

本史料の記事から、文化九年(一八一二)九月五日、徳山藩御用絵師朝倉南陵に対して絵図方兼勤が命じられ、同十一年(一八一四)正月二十八日、絵図方役所が設置されたことが判明する。

ちなみに、同役所の設置は、「徳藩年表録 從享保四己亥歳」(徳山毛利家文庫・年表六)および別本の「徳藩年表」(明治四年写、県史編纂所史料四七〇)の文化十一年一月二十八日条にも「絵図方役所建」と記されて

いる。

同藩絵図方が作成あるいは収集、保管した絵図類は、文政二年(一八一九)の「諸図類目録」(徳山毛利家文庫・目録一五)に九六件、明治初期頃の台帳とみられる「旧政府御蔵日記絵図類書抜牒」(同・目録一九)に二三五件が記録されている。現在、「徳山毛利家文庫」の絵図類は整理中であり、徳山毛利家に伝来する絵図二十余点(「徳山毛利家歴史資料目録」、山口県教育委員会、一九八九)を含め、同藩絵図の遺存状況の解明は、今後の課題である。



(表紙)

(原表紙)

「文化壬申九月後 御用所
癸酉十二月 御法制方
甲戌正月二月

絵図方之事全録

(羅込・表)

「銀三匁

本受方手子より絵図方役所手子方間乞合候付、御心付二可被下候

壬申 神村文左衛門 銀一両

本受方手子より御世帯方御意銀式両事

(羅込・裏)

「熊公守之

半兵衛

本受方手子より絵図方役所御用向をも受候間乞合候二付被下候

壬申代払

御用所御用銀

御受払所

絵図方之事

目録

(文化九年)

一文化壬申九月五日 朝倉南陵絵図御用兼勤二付、

御心付并鳥野甚吉育阿武才治郎絵図方手伝役御雇御沙汰之事

文化十年

(文化十年)

一癸酉十二月廿八日 阿武才治郎絵図方御用出精所

勤二付、御増扶持御沙汰之事

(文化十一年)

一甲戌正月廿八日

於御蔵本絵図方役所被立置、

朝倉南陵・阿武才治郎出勤方御沙汰之事

一甲戌二月五日

絵図方役座職掌筋并御用所

役人其向引受方御書付之事

覚

朝倉南陵

右是迄追々絵図御用被仰付、近年ハ其向も彼此差湊候

壬申
九月五日

覚

阿武才次郎

右去秋御雇朝倉南陵繪図方手伝被仰付候処、毎度村方へも御用二付罷出、尚当年ハ奈古・大井兩村被差越、繪図向届敷相調老人立之勤格別出精遂苦勞候二付、持懸り扶持方へ今老人扶持相増式人扶持方被下之候条、弥以出精可相勤候事

右之通被仰付候、以上

癸酉十二月廿八日

阿武才次郎

此度於藏本繪図方役所被立置候条、其向手伝御雇先達て御沙汰通二付、向後役所出勤被仰付候當時御用相湊候儀旁本勤之授筋を相受引受之廉々出精取計可為肝要候

但、毎月二四九之日は先出勤被差除候、尤時々差

向候御用二付役所又ハ外向出勤之義ハ格外候事

甲戌正月廿八日

此度於藏本繪図方役所被立置候条、其向兼て被仰出筋も有之通二付、時々役所出勤被仰付候、當時受懸御用も差湊候儀二候間、本業御用遂練合手伝勤之者えも無忽様相

(朱書)
「右月番之兩人役達渡之」

右繪図方役所去年冬比迄之本受役所振替にて彼場所被相定候、四疊敷六疊敷板間老坪分計之所にて御世帯役所前椽続棟也

繪図方役所

繪図方御用懸有之もの、外不可入事
甲戌
正月

右役所へ硯箱二面筆一対中形墨老挺宛御藏本仕向にて為渡之、後二筆紙墨之御定追て可相成候事

一右二付、役所手子組付老人本受所算用手子より兼勤、尤根役所用勤重二引受繪図方之儀ハ役所朝夕之取計其

授何分御用向都合能相整候様心配可為肝要候、於御用筋は懸り之兩人役より可相達候

但、御用出勤方於時相達候日相ハ格別にて毎月三度宛二定出勤被仰付候、其当日々々御用筋成丈取縮、其余は御用之緩急を以罷出取計御密用調物之外ハ品ニより自宅ニても御間合候様仕可然候事
甲戌正月廿八日

(朱書)
「右月番之兩人役達渡之」

余差懸候、小々用相并可申之通覚書にして申渡相成繪図方役えも及其達候事

一繪図御用懸之儀ハ別て御隠密之決ヲ以神文被仰付候趣兩人役相達於御目付役所如左

神文

一今度繪図方出勤被仰付候二付てハ万端入念相勤可申候事

一御用相調候物私之趣意を以猥之儀堅仕間敷候事付、賄賂等を受私曲之取計仕間敷候事

一繪図方御用懸り之儀ハ別て御隠密之筋二付、他人ハ不及申、親子兄弟たり共一切相洩し申間敷候事
右偽申上ニおいてハ

梵帝釈

文化十一年甲戌正月廿八日 朝倉南陵

遠藤近助殿

神文

前同文

阿武才次郎

遠藤近助殿

覚

繪圖方

一御領村分大繪圖享保製十二帖二く、り外御堺目は勿論御内向ニおゐてハ公地百姓持小林田島等之堺迄正しく相立候様重キ向より始追々明細圖調被仰付候事

附、享保之後追々之新開田島又は不表之地惣て道橋人家川陂山林之増減等相正し、其図面補正ニ可及候事

一此後々海川山野之新開田島等惣て之下地之物堺相正し図面調被仰付候、尤檢地之節其場所不被差出候時は其向御役人畝反究帳へ差副出し候分間図略図等之間懸り兩人役より可相達候間、右ニ抛り候て清図調ニ及申候、惣て山野田土懸り図類之儀は時ニ臨何ニよらす調被仰付候事

附、時々御領内廻見をも被仰付候、其向委細は追て御規定可相成候事

一調之図類ハ控図清図兩帖相仕立繪圖方役所ニおゐて目錄一牒を立置、節ニ記し付、於時其向御用懸り兩人役之宛印乞受ニ及、左候て清圖ハ上御用所納被仰付候条録牒え其渡時月共書入受取印を受加置、控圖は繪圖方役所ニ可相預置候事

右此度繪圖方役所出勤被仰付取計方之都合被定置之候、後々無遺失様相心得其向出精可為肝要候、以上
文化十一甲戌歲

二月五日

覚

御藏本

兩人役

記録役

此度繪圖方勤役被仰付其向御沙汰通ニ付、図類之調は於時其懸り兩人役取調らへ繪圖方役座目錄牒及宛印、追て清図御用所納之節ニ御法制座え引受、彼向受取印ニ及記録役座申合御用所図類目錄え記し付、記録役座預御藏納被仰付候事

附、古来より有懸図類當時御締不相立事ニ候間、記録役座え改て引受惣有目錄相調、重立候向相欠候分は向々取しらへ其補ひニも及候様取計可有之候事

一新開之田島惣て被下地之畝反究其向出役へ懸り之兩人役申合取究方牒面へ分間図略図之間相調差出せ、右図を繪圖方役座え渡、彼向図面調相成候様取計勿論其時宜ニより檢地場所え繪圖方之者出役も被仰付候間、都合宜其指引可有之候事

附、檢地方役向調之図面は繪圖方調之図面え相添受取御用所ニおゐて其取締可有之候事

一御作事役所ニおゐて調出候諸御屋作図其余図類共、向後懸り兩人役取調引受前条同様にして記録役座預被仰

付候、是迄有懸図類^{中題}も其取しらへ受方可有之候事

右之通後々無遺失様其心得可有之候事

文化十一甲戌歲

二月五日

本受所

算用手子

老人

此度繪圖勤役被仰付候ニ付、右役所手子兼勤申付候、尤根役用向勤重ニ引受、繪圖方之儀ハ役所朝夕之取計其余差懸り小々用相^{中題}可申候、右ニ付是迄相勤候御世帯役所取計之儀ハ差除候事

甲戌二月

小使所

繪圖方役所手子朝夕之取計其余差懸候小々用本受所算用手子より兼勤之儀、過ル甲戌二月及沙汰置候処、其者病氣其外相欠候節、此後之義は小使所より可及取計候、依てハ不勤等之儀は小使所えも相達候様兼て頭取より申聞

小使中可申談置候事

丙子九月

文政八乙酉歳

十一月十八日

文政元戊寅歳

重令

覚

鳥野又助

一定三人扶持方

阿武才次郎

右近年御雇繪図方手伝被仰付候処、其向遂出精候二付、御合筋も有之、一代御蔵本附被召仕持懸り扶持方之引

右繪図方御用御無人之処、御自分義内々画業相心得候趣二付、当分勤懸りより兼繪図方被差出候間、阿武丹蔵申談可相勤候、尤右出勤中帯刀被差免候間、旁可被相心得候

結前書之通被下之、繪図方御用被仰付候条、弥以無怠

阿武丹蔵

可相勤候事

右之通被仰付候、已上

右繪図方御用御無人二付、鳥野又助儀勤懸りより兼当分繪図方被差出候間申談可被相勤候

文化十五年戊寅三月朔日

繪図方書拔

一文政八乙酉歳

十一月十八日

鳥野又助

〔朱書〕
「右之通於御玄関御目付役兩人役中列座月番三木四郎五郎申渡之、左候て是迄惣髮之所俗鉢二被仰付候段兼崎小右衛門を以相達候事」

右繪図方御用御無人之処御自分義内々画業相心得候趣

文政十丁亥歳

二付、当分勤懸りより兼繪図方被差出候間、阿武丹蔵

覚

申談可被相勤候、尤右出勤中帯刀被差免候間、旁可被

飯田嘉蔵組

松村文右衛門

相心得候

〔朱書〕
「二又助御呼出如左」

鳥野又助義産穢被差免、左候て御用有之候間、只今御

蔵本へ御差出可成との義二御座候、以上

右当年江戸番手外ハ繪図方役所附手子役にて御用図物認事申付心懸能骨折相勤候二付、此後々共繪図懸り役義申付、出勤中為御心付持懸り之役扶持之半扶持増可被下候事

十一月十八日

丁亥九月朔日

大令

藤井道之助様

兩人役

右兩所役座ニおゐて申渡候事

文政八乙酉歳

文政十一戊子歳

十一月十八日

六月六日

重令

阿武丹蔵

留所役

右繪図方御用御無人二付、鳥野又助義勤懸りより兼当分繪図方被差出候間、申談可被相勤候

鳥野又助より倅要次郎儀於時繪図方御役所へ召連罷出手助為仕度段伺出候処、本業出精其間合召連罷出候義ハ勝手次第候様可被申伝候

十二月廿四日

重令

故阿武丹藏義、御藏本附二て繪図方二被召仕候処、当春令病死候二付てハ、以御慈悲右妻子之老人扶持方近年之内被下之候

(跡、脱)
阿武丹藏親類
朝倉南陵

右故丹藏義、繪図方被召仕候処、数年出精相勤令苦勞候二付趣有之、倅太吉義繪図向相心掛追々御用相立候様取計方心配候様

右南陵義月番処呼出達之

天保二辛卯歳

正月廿八日

重令

鳥野又助

右倅近助儀繪図方手伝として当分被差出候間、出勤中老人扶持方被下之候

天保六乙未歳

御自分義、勤懸りより兼当分繪図方被差出置候処、御差繰筋有之被差免候間、可被得其意候、如此申入候、以上

正月十七日
鳥野又助殿

故阿武丹藏倅太吉儀、繪図向相心掛御用相立候様兼て御達之趣有之、追々教導相成候得共、現事取扱不申候てハ図面量取之意味会得仕兼候間、御用繪図方見習被仰付被下度、御申込之趣御当役申達候、依之御藏本繪図方役所之為見習出勤被仰付、於時は写取現場所えも可被差越候間、兩人役受差図候様太吉之御申伝可成との儀二御座候、以上

六月九日

朝倉牧太様

兩人役

天保七丙申年

覚

阿武太吉

右亡父丹藏義、御藏本附二て繪図方被召仕候処、過ル文政戊子歳令病死候二付、以御慈悲妻子之近年之内老人扶持被下置候処、身柄及成人追々御用相立候二付ては右扶持方向後身柄之被下之候条、弥以繪図向出精可仕候事

右之通被仰附候、以上

天保七丙申歳

六月九日

覚

朝倉牧太

右阿武太吉義、去年已来繪図方見習被仰付置候処、追々其向相熟候二付、此上繪図向御用も可被仰付候条、依て(御自分義、脱)は繪図方都合之掛り被仰付候間、父南陵申合太吉之諸事及差引御為宜心配可有之候

右同人

右父南陵義、故阿武丹藏死去之砌、丹藏倅太吉繪図向相心掛追々御用相立候様取計方被仰付置候処、太吉義追々其向相熟候二付、此上繪図方御用も可被仰付候条、南陵義乍老体其向功者之義(御自分、脱)旁申談都合之差引二及諸事御為宜遂心配候様南陵之可申聞候

(朱書)
〔〇〕天保九戊戌歳五月十八日 安野善平

右是迄御雇繪図方出勤被仰付置候処、其向遂出精追々御用相立候二付、一代御藏本付二被召仕、持掛扶持方之引給定三人扶持方被下之

(朱書)
〔〇〕天保十己亥正月廿七日 松村文右衛門

右繪図掛役儀被仰付置候所、多年実貞二骨折相勤候二付切米高拾五石被下之一代御藏本付二被召仕候、左候て繪図方出勤被仰付候条、弥以出精可相勤之通被仰出候事

安野善平

松村文右衛門

御領内繪図文化歳已来追々出来候所、未半途之場所此度

調方被仰付候通、天保十己亥二月廿四日御沙汰相成候事
五月七日 覚
繪図方

て切米拾五石被下之、次一代之儀も身柄同様被召仕候
間弥以相励所勤可仕候事
右之通被仰付候、已上

一式人扶持方

右役座之儀は御用多猶御領廻在をも被仰付候内々迷惑有

之儀二付、格別之訳を以前書之通御役扶持立被下之候事

天保十二年閏正月五日

覚

佐藤三四郎

天保十二年閏正月五日

六左衛門弟

佐藤三四郎

右御雇繪図方出勤被仰付置候処、日勤之役所内分迷惑

筋も有之趣二付、半扶持方相増都合耆人半扶持方勘渡

被仰付候間、弥以出精所勤可仕候事

内々画業相心掛ケ居候二付、当分御雇繪図方被差出出勤

右之通被仰付候、以上

中耆人扶持方被下之帯刀被差免候

甲辰十二月廿四日

天保十五甲辰歳九月十八日

弘化二年己巳十二月廿三日

覚

覚

安野善平

一切米拾五石

松村幸吉

右一代御蔵本附被仰付繪図方出勤被仰付候処、其向出
精御用相立候二付、是迄被下置候三人扶持方高直ニシ

右父文右衛門義、一代御仕成被仰付繪図方役所出勤被
仰付候処、格別出精相勤御領村方繪図過半相調其上近

年切戻之義ニ付現地取調方等届鋪其筋二付ては御為筋

〔遺漏〕「重令録 天保六年」(重令録二七)

不少儀候、依之御含筋も有之候処、先般令病死候二付、

〔天保六年〕
一六月十四日

身柄へ前書之通被下之、一代御蔵本附格被召仕繪図方

故丹蔵俸
阿武太吉

附ニして彼役所出勤仰付候事

右之通被仰付候、以上

弘化二年己巳三月廿三日

仰附候

右朝倉牧太より申込ニ因て繪図方為見習今日より出勤被

弘化五戊申歳

覚

和助俸

国広彦右衛門

右近年嫡子より御雇繪図方出勤被仰付置候処、其向出精
相勤候二付、御蔵本附本主座御雇被召仕候、依之御雇中
切米高拾五石被下之、繪図方出勤被仰付候条、弥相励所
勤可仕候事

戊申

正月十五日